小平浪平の生がい年表

浪平9才(右)と、兄の儀平(左)

浪平が合戦場にいたころにかいた作品

浪平、大学生時代(明治32年秋撮影)

浪平、妻の也笑と最後の旅行

年齢	西暦(元号)	出来事
0才	1874年(明治7年)	10月5日、東京都文京区の自たくでなくなる ・日立製作所相談役となる
6才	1880年(明治13年)	日立製作所社長辞にん
11才	1885年(明治18年)	戦後の復こう事業を開始
14才	1888年(明治21年)	栃木工場が完成
17才	1891年(明治24年)	栃木工場の起工式が行われ、あいさつをする
19才	1894年(明治27年)	当時の栃木市長と栃木商工会議所会頭の申し出を受け、日立製作所栃木工場をつくる計画が進められる
22才	1896年(明治29年)	日立製作所の取締役社長になる
26才	1900年(明治33年)	国産第一号の大がた電気機関車を完成させる
30才	1904年(明治37年)	久原鉱業株式会社から独立し、正式に株式会社日立製作所となる
31才	1905年(明治38年)	日立にある工場が火災で焼失
32才	1906年(明治39年)	・機械づくりのための新工場が完成 ・純国産の5馬力モーター3台を完成させ、この年が日立製作所の始まりの年となる
34才	1908年(明治41年)	鉱山の仕事のあい間に電気機械のしゅう理を始める 久原房之助にさそわれ、東京電燈を辞めて久原鉱業所(今のJX金属)日立鉱山に入社
36才	1910年(明治43年)	東京電燈(今の東京電力)に入社
45才	1919年(大正8年)	小坂鉱山を辞め、広島水力電気(今の中国電力)に入社
46才	1920年(大正9年)	・秋田県の藤田組小坂鉱山に入社、久原房之助と出会う ・東京帝国大学工科大学電気工学科を卒業
	1923年(大正12年)	関東大しんさい・京浜地区のふっこうにじん力
50才	1924年(大正13年)	・東京帝国大学工科大学(今の東京大学工学部)電気工学科に入学 ・第一高等学校を卒業
55才	1929年(昭和4年)	小説家・村井弦斎に相談して電気工学を学ぶことを決める
	1941年～1945年(昭和16年～昭和20年)	太平洋戦争・多くの工場が戦火により焼失
68才	1942年(昭和17年)	第一高等中学校(のちの第一高等学校)に入学
69才	1943年(昭和18年)	・東京英語学校に入学 ・下都賀寒川郡立第一高等小学校(今の栃木中央小学校)を卒業
70才	1944年(昭和19年)	栃木小学校に転校
72才	1946年(昭和21年)	淑慎学舎(今の合戦場小学校)に入学
73才	1947年(昭和22年)	1月15日、小平家の次男として、栃木県下都賀郡家中村合戦場(今の栃木県栃木市都賀町合戦場)で生まれる
77才	1951年(昭和26年)	